

## VI 未規制化学物質等の状況

### 1 調査概要

内分泌かく乱化学物質については、環境省が魚類への内分泌かく乱作用の疑いがあるとした2物質を調査した。

残留性有機汚染物質等については、生物蓄積性があり難分解性で長距離移動性があるPOPs条約規制物質に追加された1物質及び難分解性の1物質を調査した。

有機スズ化合物については、最近5年間の調査で環境省が設定した公共用水域の「水質評価の(暫定)目安値」(0.01 $\mu$ g/L)を超えたことがある1地点について2物質を調査した。

### 2 調査物質

内分泌かく乱化学物質 (2物質)	4- <i>tert</i> -オクチルフェノール、ビスフェノールA
残留性有機汚染物質 (2物質)	パーフルオロオクタンスルホン酸及びその塩、 パーフルオロオクタン酸及びその塩
有機スズ化合物 (2物質)	トリブチルスズ化合物、トリフェニルスズ化合物

### 3 調査地点及び調査対象

表VI-1及び2の県内5地点の水質並びに表VI-3の県内1地点の水質

### 4 調査結果

#### (1) 内分泌かく乱化学物質

4-*tert*-オクチルフェノールは全ての地点で報告下限値未満であった。

ビスフェノールAは菊川と萩間川の2地点で報告下限値以上検出され、萩間川では1.95 $\mu$ g/Lと、直近の全国調査(平成28年度)の検出範囲(0.005 $\mu$ g/L未満~0.15 $\mu$ g/L)に比べても高かった。

#### (2) 残留性有機汚染物質

残留性有機汚染物質の検出率は、100%であった。

パーフルオロオクタンスルホン酸及びその塩の検出率は100%であったが、直近の全国調査(平成28年度)の検出範囲(0.025ng/L~14ng)に比べて高くなかった。

パーフルオロオクタン酸及びその塩の検出率は100%であったが、直近の全国調査(平成28年度)の検出範囲(0.26ng/L~21ng/L)に比べて高くなかった。

#### (3) 有機スズ化合物

トリブチルスズ化合物は、公共用水域における水質評価の目安値を達成しなかった。

トリフェニルスズ化合物は、水質評価の目安値以下であった。

表VI-1 平成30年度未規制化学物質調査結果(内分泌かく乱化学物質) 単位:  $\mu\text{g/L}$

地点名 \ 物質名	4- <i>tert</i> -オクチルフェノール	ビスフェノールA
菊川 (花面橋)	<0.01	0.02
萩間川 (東中歩道橋)	<0.01	1.95
湯日川 (岩留橋)	<0.01	<0.01
坂口谷川 (坂口谷川橋)	<0.01	<0.01
勝間田川 (竹橋)	<0.01	<0.01
報告下限値	0.01	0.01
報告下限値以上/検体数	0/5	2/5

表VI-2 平成30年度未規制化学物質等調査結果(残留性有機汚染物質等) 単位:  $\text{ng/L}$

地点名 \ 物質名	パーフルオロオクタンスルホン酸及びその塩	パーフルオロオクタン酸及びその塩
菊川 (花面橋)	0.33	3.1
萩間川 (東中歩道橋)	0.46	6.8
湯日川 (岩留橋)	0.36	3.2
坂口谷川 (坂口谷川橋)	0.37	4.4
勝間田川 (竹橋)	0.42	4.6
報告下限値	0.04	0.04
報告下限値以上/検体数	5/5	5/5

表VI-3 平成30年度未規制化学物質調査結果(有機スズ化合物) 単位:  $\mu\text{g/L}$

地点名 \ 物質名	トリブチルスズ化合物	トリフェニルスズ化合物
安良里漁港	0.020	<0.005
水質評価の目安値	0.01	0.01
水質評価の目安値超過/検体数	1/1	0/1